

2017年12月号

12月15日(金)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 255



早い冬の訪れ…

「今年の冬は早いね～！」

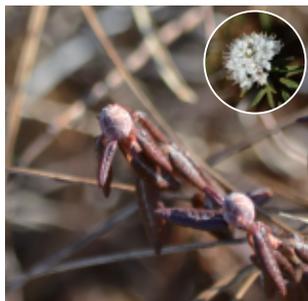
毎日、このような挨拶から始まる釧路地方。今年は全道、あるいは全国的にも寒波の襲来が早く、大雪に悩まされている地方も多いとか。

温根内も一気に冬の景色へ様変わりしましたが、気温差も激しいこの時期、湿原は色々な表情を見せてくれます。

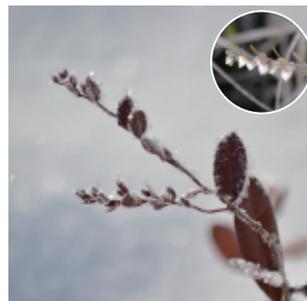
☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内探勝木道周辺の自然～



【カラフトイツツジ】
ツツジ科 樺太磯躑躅
ミズゴケ湿原の凹凸地形の盛り上がった箇所には、本種のような落葉しないタイプの矮小低木が見られます。今は花芽の状態です。



【ホロムイツツジ】
ツツジ科 幌向躑躅
こちらもミズゴケ湿原に見られる落葉しない矮小低木。春の早い時期に、下向きの白い花を咲かせます。絶滅危惧IB類 (EN)。



【ヤチダモ】
モクセイ科 谷地櫛
樹木の枝には各種特有の形をした冬芽が見られます。ヤチダモの冬芽は円錐形をしていて、葉痕は対生しています。



【ドクゼリ】
セリ科 毒芹
湿原の水面に鮮やかな緑色をしたものが浮いています。誤食された事例もあるドクゼリの根茎で、この状態で冬を越します。



【雪原の足跡】
湿原の新雪の上には動物たちの足跡が無数に残されています。日中には見かけない動物が湿原を歩き回っているのがよくわかり、想像を掻き立てられます。



【キツツキ類の食痕】
ハンノキなどの樹木には、写真のようなキツツキが突いた穴が開けられているときがあります。冬に備えて餌を探す必死さが、伝わってくるようです。

～温根内探勝木道周辺の野鳥～

温根内周辺は早くも冬の装いとなり、オオワシやオジロワシといった大型の冬鳥の目撃情報も聞かれるようになりました。鶴居軌道沿いの樹林帯や凍らない湧水地では、餌を求めてくる小鳥たちも観察でき、時にはタンチョウの足跡なども見られます。ビジターセンターでは双眼鏡を無料で貸出しておりますので、お気軽に案内カウンターまでお声がけください。



【セグロセキレイ】 夏鳥
(一部越冬) セキレイ科
秋頃から湧水地にやってくる常連さんで、水生昆虫などを採餌します。周囲が雪に覆われると見事に景色と同化してしまいます。



【オオハクチョウ】 旅鳥
(一部越冬) カモ科 大白鳥
今年も編隊を組んで旅立っていき姿が見られました。一部は道内で越冬しますが、旅立っていった個体とは来年までのお別れです。



【ノゴマ(メス)】 夏鳥
ヒタキ科 野駒
VC 周辺で餌を探しているようでした。12 月に見かけることは非常に珍しく、渡りの途中で迷い込んでしまったのかもしれません。



【シジュウカラ】 留鳥
シジュウカラ科 四十雀
他のカラ類やキツツキなどと行動を共にし、樹木の皮の下にいる昆虫などを食べます。名前に「四十」と付く由来には諸説あり。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥(11月15日～12月14日) ※和名は日本鳥類目録第7版の順

■オオハクチョウ■キジバト■タンチョウ■トビ■オジロワシ■オオワシ■ノスリ■コゲラ■アカゲラ■カケス■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ミソサザイ■ツグミ■ノゴマ■セグロセキレイ■カワラヒワ■マヒワ

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆☆ 自然ふれあい行事が開催されました ☆☆☆☆



○「地形を見て歩く! 温原探索」 11月19日 参加者: 14名

木々の葉が抜け落ち、空気が澄んで遠くまで見渡せるこの時期、初の試みとして釧路湿原周辺の「地形」に焦点を当てて木道を歩く観察会を行いました。最初に、VC 館内の立体模型を使って釧路地方の大まかな地形的特徴を踏まえ、木道へと出発しました。まず、釧路湿原の代表的な「微地形」であり、姿がよく確認できるようになってきたヤチボウズの特徴とそのでき方、ハンノキの疎密による樹形の違いなどについて解説しました。残念ながらこの日は、薄雲がかかって阿寒の

山々は詳しく見ることはできませんでしたが、予め用意していた写真を使って、噴火口の移動によって火山の形が決まってくることなども説明し、参加者からは「摩周湖は活火山なの? 西別岳は?」といった質問も上がりました。そのほかミズゴケ湿原では、釧路湿原が実はプレート運動に関連してできた谷地形であることについても触れました。参加者からは、いつもとは違う視点で木道を散策できてとても面白く、次年度以降も続けてほしいという感想も多く聞かれました。

が、がんばります!(講師: 藤原伸也)



○「クリスマスリースを作ろう」 11月26日 参加者: 15名 講師: 甲斐美弥子(リース創作研究家)

クリスマスを1か月後に控えたこの日、オリジナルのクリスマスリースを作製するイベントを2年ぶりに行いました。講師をお願いした甲斐氏の計らいで、基本的には各自が自由に作り、随時アドバイスを受けて進めていくという方針でリース作りが開始されました。事前に多くのパークボランティアさんの協力を得て、ツルウメモドキやコクワ、ヤマブドウといった蔓性の植物から手作りしたリース土台に、参加者は思い思いに飾りつけしていきました。2時間という



限られた時間の中で複数個作成した人も見られました。また、今回は小学生の方も多数参加され、大人顔負けの立派なリースを作っていました。皆、時



間いっぱいまで自由にリースを作る楽しさを満喫できた様子でした。皆さん、楽しいクリスマスを！

○「冬の植物を見に行こう」 12月3日 参加者：18名 講師：加藤ゆき恵（釧路市立博物館）

花の時期を終えて厳しい冬を控えた植物たちが、どのように過ごし、冬を越そうとしているのかを探るイベントを開催しました。講師は釧路市立博物館の加藤学芸員にお願いしました。まず、館内では加藤氏が準備されていた植物の種子のサンプルなどを用いつつ、この観察会の趣旨を説明されました。その後屋外へ出て、鶴居軌道沿いではサワシバの実が子孫の分布を広げるための工夫を観察したほか、湧水地に見られるオオバタネツケバナのロゼットも観察できました。また水辺をよく探すと、季節外れにフキノトウが芽吹い



ており、驚く参加者も見られました。

ヨシ・スゲ湿原ではタヌキモの殖芽（越冬芽）をすくい上げて、その様子を詳しく観察したり、褐色に変わったスゲ類とイネ科の植物の違いなどについても講師から解説されました。春から秋にかけて綺麗な花や実をつけていた植物たちが一見、枯れてしまったように見えて、実は次の春を見越して様々な戦略を練っている姿に、参加者からは驚きとともに感心する声が上がりました。観察会の中では多くの質問も飛び交い、今年最後となったふれあい行事は、大変有意義な会となりました。

☆☆☆☆☆イベントのご案内（1月）☆☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み☎0154-65-2323



♪湿原アニマルトラッキング

〔日時〕1月14日（日）10：00～12：00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

雪の上の足跡や、あちこちに残る痕跡から、湿原周辺の動物の行動と暮らしについて考えます。長靴と防寒対策をお忘れなく。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎015-487-3003

♪連凧を作って揚げよう

〔日時〕1月6日（土）10：00～12：00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕100円（材料費）

〔集合場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～年末年始の休館日について～

本年も大変お世話になりました。当ビジターセンターは年末年始、下記の日程で休館させていただきます。

休館日：12月29日（金）
～1月3日（水）

新年の開館は、2018年1月4日（木）午前9：00からとなります。

～皆様どうぞよいお年を～

月刊 温根内通信 No.255

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@hokkai.or.jp

ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/

Facebook：温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間：9：00～16：00（4月～10月は17：00まで）

休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料